

平成30年度 学校教育自己診断の結果のお知らせ

昨年末に子供たちをはじめ保護者の皆様方にご協力いただきました「学校教育自己診断」(学校アンケート)の結果をまとめました。この調査は毎年ほぼ同じ項目で実施しており、学校教育の活性化や改善の資料とさせていただきます。



～1・2年の児童のアンケートより～

1. アンケート項目全体を見ると、5項目中4項目が昨年度とほぼ同じ数値でした。
2. 昨年度より肯定的評価が上がった項目は、「授業がわかりやすい」「困ったときに先生に相談する」でした。

すべての項目で8割以上、3項目で9割以上の肯定的な意見でした。

低学年は、学級担任との関係が学校生活が楽しいかどうかに関心があります。各学級ともこれまでと同様に、子どもたち一人ひとりを丁寧に見取り対話しながら、安心して過ごせる学級づくりに努めていきます。授業においては、誰もが「わかる」「できる」授業を目指して、研鑽を積んでまいりたいと思います。子どもたちと担任がよい関係を築いていけるよう、ご家庭でも前向きな声かけをよろしくお願いいたします。

～3年から6年までの児童のアンケートより～

1. アンケート項目全体を見ると、17項目中14項目が昨年度ほぼ同じ数値でした。
2. 昨年度より肯定的評価が高かったのは、「命の大切さについて学習することがある」でした。
3. 昨年度より肯定的評価が低かったのは、「先生や友達は自分のよいところを認めてくれる」、「あゆみの学習成績のつけ方はわかりやすい」でした。
4. 「児童会活動は楽しい」は昨年度同様90%以上の高評価でした。

全体的に学校生活については8割を超える肯定的意見が多く、先生との関係性や自尊心にかかわる項目が低い傾向がありました。これは、高学年特有の思春期などの影響もありますが、私たち教職員が子どもたちのかかわりを反省すべきところだと考えています。子どもたちを積極的に認め褒めること、相談しやすい環境を整えることなど、今後も全教職員で改善していきたいと思えます。また、あゆみについては、再来年度の新学習指導要領の実施にあわせて、改訂していく予定です。

～保護者のみなさまのアンケートより～

回収率90.1%でした。ご協力をありがとうございました。



1. 肯定的評価が80%以上の項目は13項目中10項目でした。特に90%以上の高い評価の項目は、以下の項目でした。
 - ・「学校は、保護者や地域の人が授業を参観する機会を設けている」
 - ・「地震や台風などの場合の対応方法が、児童や保護者に知らされている」
 - ・「学校から家庭への連絡は学校便りや学年だより、HP、懇談会などを通じて適切に行われている」
2. 一番肯定的評価が低かった項目は、「学校の施設・設備は学習環境面で整っている」でした。
3. 昨年度より肯定的評価が大きく向上した項目は、「学校は、第三中学校や吹田第六小学校、吹田第一幼稚園などと連携した交流活動に取り組んでいる」でした。

年間を通した参観・懇談の機会や学校行事等に足を運び、お便りやHPなどで学校の情報をチェックするなど、本校の教育活動に興味と関心を持っていただいていることがわかりました。肯定的評価が高かった項目にある三中ブロックでの様々な取り組みは、年間を通して小学校と中学校、幼稚園と小学校・吹一小と吹六小とで相談しながら進めています。年に数回は幼小中合同で研修会や連絡会をもつなど、三中校区で育つ子どもたちの情報を共有し、各学校・園での指導や支援に生かしています。肯定的評価が最も低かった学校の施設・設備については、これまでも様々なご意見をいただき、教育委員会にも要望として挙げているところです。今年度は6月の地震、9月の台風などのため様々な修繕があり、現在もまだ対応している状況です。これからも子どもたちが安全によりよい環境で学習が進められるように、引き続き学習環境の改善に努めてまいります。なお、来年度は管理棟(職員室のある棟)のトイレ改修工事を予定しています。

～保護者のみなさまからのご意見より～

今年度も、保護者の方々からたくさんの貴重なご意見をいただきました。いただきましたご意見はすべての教員が目を通し、今後の教育活動に役立ててまいります。ここでは、主なご意見に対してお答えします。

Q 地震からの津波を想定した避難場所が、二次避難として学校の運動場から片山公園に避難すると聞いたが本当か？地震や津波の時の対応は詳しく知っておきたい。

A 地震や津波の対応については、吹田第一小学校の地震津波時の危機管理マニュアルを作成し、毎年の避難訓練を重ねながら改善・改訂しています。津波警報発令時は3メートル未満の津波であることが想定されるため、校舎の3階に避難します。ただし大津波警報の発令の場合は、想定外の被害も予想しておく必要があります。通常大阪湾岸部に津波が到達するのは1～2時間程度かかることを考慮すると、その間に津波のこない高台に避難するのがより安全であると考えられます。そこで本校では、吹田第一小学校から最も近い高台にある片山公園を、二次避難場所である運動場からの三次避難場所に設定しています。(吹田市危機管理室HP参照)ただ、自然災害については絶対といえることはなく、例えば震源地が近ければ予想より早く津波がやってくることも想定されるので、現場での素早い情報収集と的確な判断が大切になります。そうしたことを踏まえて、毎年の避難訓練を真剣に取り組み、危機対応について教職員で協議し改善してまいります。

Q いじめの対応について、学校ではどのようにしているのか知りたい。

A いじめについては、全教職員で「いじめは絶対に許さない」「学校全体でいじめ防止・対策を進めていく」ことを年度当初に共通理解し、教育活動を進めているところです。

いじめの対応は、いじめが「からかい」や「いじり」などの早い段階で気づき対応すること、いじめを受けた子どもに寄り添って対応すること、担任だけでなく学校体制で対応することなど、方針を明記した本校の「いじめ防止・対策基本方針」にそって進めていくことになっています。日々の観察や生活アンケートなどで児童の様子を的確に見取り対応していくことや、実際にいじめが起きた時は、担任と学年の他の教員、生活指導担当教員、養護教諭、管理職などで構成される「いじめ防止対策委員会」を設置して、初期対応や再発防止の取り組みなどについて協議しながら進めることになっています。

しかし、一番大切なのはいじめをしない・させない子どもや集団を育てることだと考えます。そのための集団の素地として、子ども一人ひとりが自分に自信を持つこと、自分を好きになること、自分を価値のある存在だと思えることが不可欠です。このことをふまえ、学校では子どもたちが「できた」「がんばった」と思える体験を積み重ねる教育活動や、子どもたち誰もが楽しく安心して通える学校づくりを目指しています。いじめの早期発見・対策については、ご家庭の協力もとても重要です。担任を通してご家庭と連携を取り合い、きめ細やかに子どもたちを見守ってまいりたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

Q 心身を向上させる行事がたくさんあるのはよいことだが、学習面が足りていないのではないか。また、子どもが楽しく学習する工夫をしているのか。

A 本校では、学力向上の取り組みのひとつとして、3学年から算数の少人数指導に取り組んでいます。これは、学力向上のために1名の教員が府から配置されているためにできることです。この特別な配置を活かし、3年生から6年生まで、学力の程度や子どもの学びの特徴に合わせ、小集団での学習を行っています。小集団を生かして本校では、課題解決の見通しを持ち、自力で課題に取り組み、他の子の考えを共有しながらよりよい解決方法を探る「問題解決学習」に取り組んでいます。成果としては、今年度の全国学力学習状況調査では算数のA問題(基礎)・B問題(活用)どちらも平均値が全国値を上回りました。まだまだ満足な数値ではありませんが、これからもこのような授業を積み重ね、子どもたちに問題解決の力をつけていきたいと考えています。

もちろんこれで充分だと考えているわけではありません。子どもたちが授業で楽しく、着実に学力をつけていくために、今後も研修や研究授業を通して教員の授業力を高めてまいります。また、学力の定着のためには、反復の練習が不可欠です。そのために学校では毎日の宿題を出しています。ご家庭でも、宿題の促しや、完了確認の協力をよろしくお願いいたします。

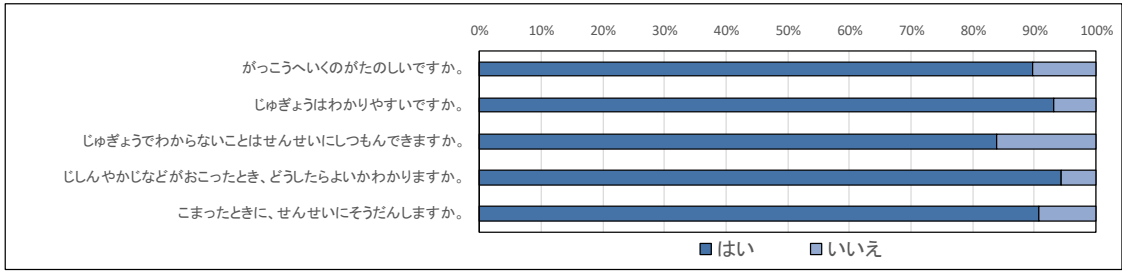
○この他にも、「課外クラブの活動についてのご意見」「学校施設の改善についてのご意見」など、様々なご意見をいただいております。紙面の関係上、すべてにお答えはできませんが、ご意見は真摯に受け止め、今後の教育活動の参考にさせていただきます。

最後に、担任をはじめとする教職員にも温かいご意見を多数頂戴いたしました。教職員一同、なお一層ご期待に沿えるよう、努力を継続していく所存でございます。研修の充実や普段の教育活動における切磋琢磨を大切に、学校全体として教員の指導力向上に努めてまいります。

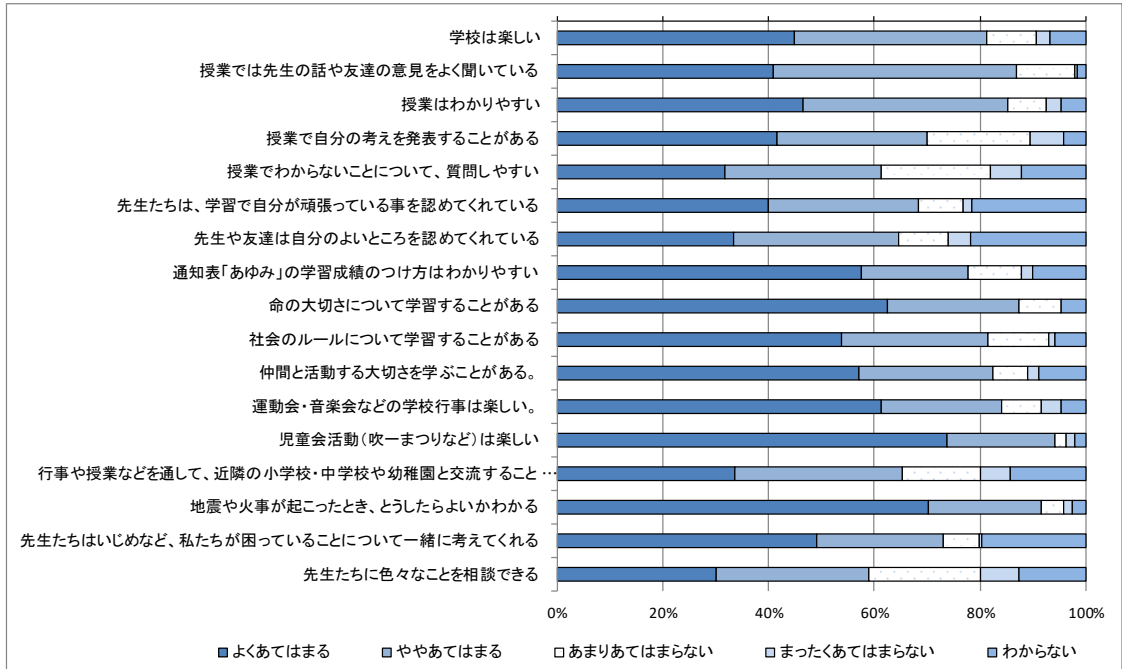
本校教育活動の推進に今後ともご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成30年度 学校教育自己診断 集計グラフ (児童・保護者別)

1・2年 児童



3～6年 児童



保護者

